

## 西都・児湯支部活動報告

### 1 研究テーマ

「生徒が見通しをもって自然に働きかけ、論理的・科学的な思考を育てる理科教育」  
～中学校理科における、主体的・対話的で深い学びを目指して～

### 2 研究内容

月	行 事	内 容
4	実務者会	第1回研修会の内容協議（上新田中）（4/16）
5	第1回研修会	組織編制 年間計画作成（上新田中）（5/20）
6	実務者会	県大会に向けた協議（オンライン）（6/17）
7	実務者会	県大会に向けた協議（オンライン）（7/21）
	第2回研修会	紙上発表に向けた協議（上新田中）（7/30）
9	実務者会	紙上発表に向けた協議（オンライン）（9/16）
10	実務者会	紙上発表に向けた協議（上新田中）（10/8）
11	実務者会	紙上発表に向けた協議（上新田中）（11/9）
	県大会（紙上発表に変更）	県中理事務局へ原稿提出（11/19）
3	実務者会	次年度に向けた協議（未定）

### 3 研究の実際

#### (1) 研究主題の設定

これからの教育の視点として、時代を担う子供たちに、時代の変化を乗り越え、伝統文化に立脚し、高い意志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けることが求められている。そのような中、平成29年に告示された新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現が謳われ、子供たちが「何ができるようになるか」を明確にししながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことの重要性が示された。

そこで、本研究会では、昨年度に引き続き「生徒が見通しをもって自然にはたらきかけ論理的・科学的な思考力を育てる理科学習」を研修主題に据え、これまでの本研究会の研究成果を踏まえつつ、本年度の第47回宮崎県中学校理科教育研究大会西都・児湯大会に向けて研究への取組を進めてきた。

#### (2) 研究の内容

令和3年度（県大会）に向けての準備

「研究のまとめ」及び研究授業（学習指導案）の検討・作成

#### (3) 研究の実際

5月に実施した第1回の研修会では、コロナ禍における県大会の在り方について、様々な角度から協議した。令和2年度末の県理事会の段階で、半日での県大会となっていたものの

開催する場合の役割分担、リスクマネジメント等について協議した。

結果的には、7月30日の県理事会にて、予測困難な今後の状況等を踏まえ、紙上発表が決定され、同日午後を実施した第2回の研修会において、地区会員への周知に至った。

その後は、全体会を行わず、実務者会（会長・理事長・副理事長・研究部長・授業予定者で構成する会）を月1回ペースで行い、これまでの研究内容を、どのようにして紙上発表としてまとめるかについて検討することとした。その際、紀要や冊子、リーフレット等としてではなく、県中理のホームページにのみ研究の全体像が掲載されることを意識して、A4判9ページ分にまとめた。

二つの研究授業の学習指導案については、実務者会を開く中で検討を重ね、従来の学習指導案形式ではなく、授業デザインとして略案形式での提案を行うこととした。その際、生徒が何を学ぶ（問いをもつ）のか、協働的な活動を行う中で考えを深め（学び合う）ながら、知識を獲得していく（ものにする）という学習のスタイルを確かなものにし、学びの過程を明確にできるように心掛けた。また、単元指導計画についても、新学習指導要領の評価の観点を意識し、どの段階で何を評価するのかを明確にした。

#### 4 研究の成果と課題

- 地区内の先生方と力を合わせ、県大会（紙上発表）を行うことができ、新たな発表の仕方及び授業デザインを提案することができた。
- 研究の進め方が確立し、2年後の九州大会発表（予定）に向けた見通しをもつことができた。
- リモート会議などを活用して、地区内の先生方との連携をさらに進め、研究を深めていく必要がある。
- 新学習指導要領の趣旨を意識した研究を進めるとともに、1人1台タブレットに伴うICT機器の効果的な活用について、教師のさらなる授業力向上に努める必要がある。